



園だより 12月号  
「喜びのとき」

芝浦アイランドこども園  
平成 29 年 12 月 1 日発行

先日、こども園の育児講座で柴田愛子先生の講演会を行いました。幼稚園教諭だった若い頃、授業のような一斉保育を主流としている中、どろんこ遊びでいきいきと楽しむ子どもたちの姿を見て、子どもの育ちにとって必要なものは何なのかと疑問に思い、同じ思いの保育者と共に子どもの心に寄り添うことを基本姿勢とした「りんごの木」を発足されたという先生。

いつでも子どもを主役にし、無条件で寄り添ってあげることの重要性や、何があってもあなたを見捨てないという親の覚悟こそが、子どもが求めている愛情であり、ありのままを受け入れられ育った子は逞しく成長していけること、子どもたちは様々な体験を通して自ら育つ力を持っていること、などお話をいただきました。

こども園においても、日ごろから遊びの中で様々な体験を通して学んでいくことを大切に、子どもたちに寄り添い、子どもたち自身の力で成長していけるよう乳児期からの連続性のある関わりを大切に取り組んでいます。

今回のお話しにあったように、こども園でも子どもの内なる気持ちを大事に考えており、子どもたちは自己肯定感をもち、人を愛する子であってほしいと願っています。

12月は、寒さの中にクリスマスツリーの暖かな輝きがあります。子どもたちの製作には、どれも自分らしい頑張りがみられます。「上手だね」で終わらずにどこを工夫したのか、どこが大変だったのか、できるようになったことをきちんと褒めてください。勿論、歌やダンスなどもお願いします。

(園長 宇野 雪枝)



- 1日(金) 安全指導
- 4日(月) 消火避難訓練
- 8日(金) 英語(5歳児)
- 9日(土) お楽しみ会(0~3歳児)
- 12日(火) 体力向上(4歳児)
- 14日(木) 巡回指導
- 15日(金) 英語(4歳児)
- 19日(火) 誕生会
- 21日(木) ほっとするコーヒーやさん
- 22日(金) 終業式
- 29~1/3 年末年始休業

- 13日(水) 園庭開放
- 21日(木) こども園で遊ぼう



**ほっとするコーヒーやさん**  
**21日(木) 16:30~19:00**  
**ZF7レコナで**  
**お待ちしております!**

内科健診	13日(水) 0・1歳児
	27日(水) 0.2歳児
身体測定	5日(火) 0.1歳児
	6日(水) 2.3歳児
	7日(木) 4.5歳児



こども園の教育・保育

平成 30 年 4 月に教育保育の基盤となる国の指針が改訂されます。

(幼稚園教育要領、保育園保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)

認定こども園の運営において、乳児保育では保育指針と整合性をもち、幼児教育においては、保育園も幼稚園もこども園も同じ文言を使い、育みたい資質・能力の整理がされました。認定こども園の特徴である、保育時間の違いや、夏休み・冬休みといった出席数の違いに配慮を持つようにとの言及もあります。

また、子どもたちの育ちにとって、他の子どもとの比較や、同一基準に対する達成度の評価を行うよりも発展的で協同的な遊びを通して、非認知能力(がまんする・あきらめない・工夫してみるなどポジティブな力)を育むことが重要視されています。

こども園でも今回の改訂を受けて、さらにいろいろな場面で子どもたちが友だちと一緒に考え、工夫したり意見を出し合うなど、主体的で対話的で、深い学びのあるグループ活動を十分に発展できるよう育てていきます。

- 0歳児：寒い日でも戸外に出て、身体を動かして遊ぶ  
保育者や友だちと歌や踊りに触れ、音楽を全身で楽しむ
- 1歳児：簡単な日常の挨拶ができるようになり、保育者や友だちとの関わり合いを楽しむ  
寒さに負けず、身体全体を使って戸外で遊ぶ
- 2歳児：戸外あそびやごっこ遊びを通して、沢山のやりとりを楽しむ  
自信の思いや欲求を簡単な言葉で伝えようとする
- 3歳児：寒さに負けず、戸外で元気に遊ぶ  
楽器などでのびのびと表現する楽しさを味わう
- 4歳児：友だちと簡単なリズムの歌に合わせて楽器を奏でることを楽しむ  
みんなで大掃除に取り組み、きれいになった満足感や達成感を味わう
- 5歳児：季節の変化に関心を持ち、イメージを共有して遊ぶ喜びや満足感を味わう  
自分で見通しをもって、進んで行動する
- 一時保育：冬の自然に触れ、興味を持ち保育者と冬の訪れを感じる  
積極的に戸外へ出て、保育者と共に身体を動かして楽しむ



収穫感謝の会

先月、秋の豊穡の恵みに感謝をする会を設けました。前半、3歳児～5歳児は学年で役割分担し、豚汁作りをしました。豚汁のお味噌は、5歳児さんが1月に仕込み、天日返しを行い醸造されたものです。「大豆をつぶすの大変だったんだよ!」覚えていてく

後半「ぶりの解体ショー」を行いました。10kgのぶりを調理師の井戸上がみごとな包丁さばきでおろし、切り身にしていくところをしっかりと観察しました。「これ、本物の?」、「なに、これ!」と大きな歓声が聞こえ、解体された頭やしっぽ、骨を触り、匂いをかいでいろいろな経験を得ることができました。子どもたちには、魚やお肉など生物の命をいただいていること、給食でいただく魚も漁師さんやこども園にもってくださる魚屋さんがいて、そして調理師さんがい

おいしく料理してと、たくさんの人が働いてくださっているの、食べ物を粗末に扱わないようにとお話しをしました。

